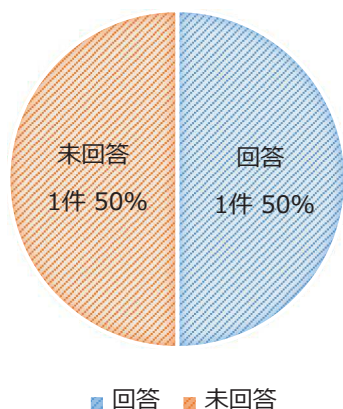


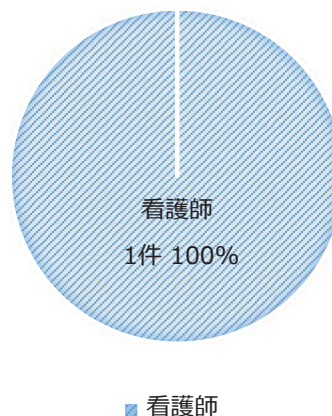
【7 訪問入浴事業所】

回答者について

■ 調査数及び回答率



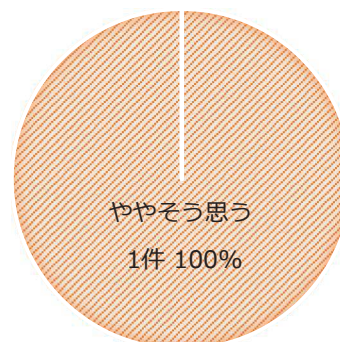
■ 職種



■ ここ3年程度の多職種や他機関連携の図りやすさ

ここ3年程度の多職種や他機関連携が図りやすくなりま
したかの問いに対し、「ややそう思う」が100%となってい
る。

理由としては、年数を重ねたことで他施設の顔や名前を
知る機会が増えた。名前だけでなく顔を合わせる機会があ
ると連携をとりやすくなる。と回答している。



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・ 病院受診後の結果はどうだったのかという情報が乏しい（家族も上手く言えない）。どの場面においてもだが、情報共有するにあたり「伝言ゲーム」のように情報がうまく伝達しないときがあり（人により考え方も違うし捉え方も違うので）ラインのように文章で各施設の該当する人（部署）に気軽に書き込める共有できるアプリみたいなのがあったらいい。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・ 退院後サマリーが利用者より後に来る時もあるため対応に困る。医療行為が必要なくなったため退院という流れになるかとは思いますが、体力の低下や食欲不振からまた病状が悪化し再入院する場合もある。病院では入院の必要がないとしても、在宅からすると「このレベルを在宅で？」と思う時がある。これは介護と看護のズレがあると思うが、退院の目処をもう少し多職種で煮詰めてから決定するのが望ましい。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

- ・ 家族に万が一の時もあるということを事前に説明し、バイタルに異常がある時は清拭にて対応している。異常時はケアマネに連絡し、関係機関に情報の共有をお願いしている。

■「看取り」の連携で感じている困難さと解決策

- ・ 看取りを目的とした利用（亡くなる前に一度お風呂に入れてやりたいという家族の意向）の場合は、訪問看護との連携を図りながら入浴を行っている。

■今後、より連携を深めていきたい職種

「医師」「薬剤師」「管理栄養士・栄養士」「理学療法士」「精神保健福祉士」となっている。



※0件：「歯科医師」「看護師」「保健師」「歯科衛生士」「作業療法士」「言語聴覚士」「ケアマネジャー」「社会福祉士」「介護福祉士」「訪問看護員」

- ・ 在宅において薬の管理（自分が何を飲んでいるか分かってない人が多い）や褥瘡、持病をもつ利用者に適切な薬管理、食事管理を指導し、それを情報共有したい。

人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんなあネット」について

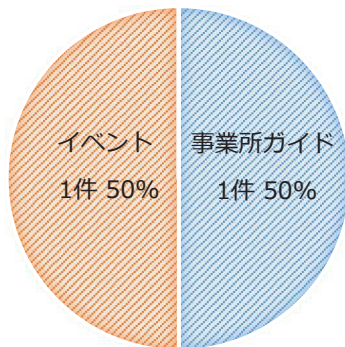
■「だんだんなあネット」の活用状況

だんだんなあネットが「あるのを知らない」と回答しており、訪問入浴事業所では全く活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない ■ あるのを知らない

■ 今後活用したいと思うページ

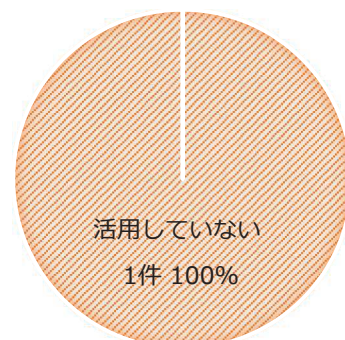


■ 事業所ガイド ■ イベント ■ 情報誌
■ お問い合わせ ■ 活用したいと思わない

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

医療と介護の情報共有シートを「活用していない」と回答しており、訪問入浴事業所では全く活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない

■ シートを活用していない理由

・ 知らなかった。

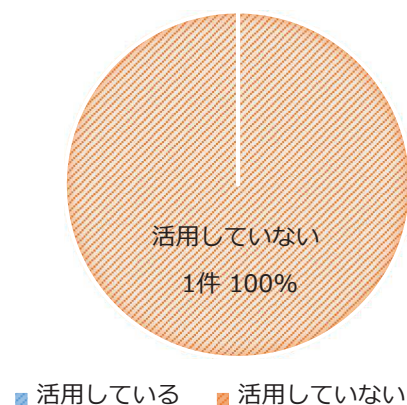
医療と介護の連絡シートについて

■「医療と介護の連絡シート」の活用状況

医療と介護の連絡シートを「活用していない」と回答しており、訪問入浴事業所では全く活用していないことが分かった。

■シートを活用していない理由

- ・知らなかった。



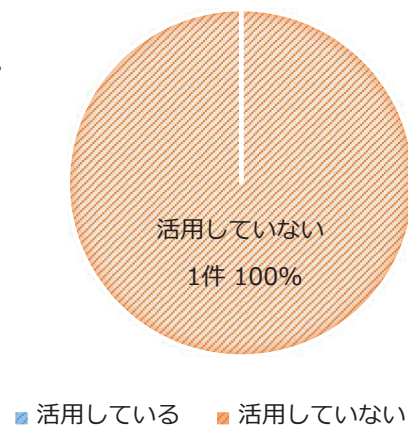
くまもとメディカルネットワークについて

■くまもとメディカルネットワークの活用状況

くまもとメディカルネットワークを「活用していない」と回答しており、訪問入浴事業所では全く活用されていないことが分かった。

■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

- ・知らなかった。



その他について

■後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

- ・日々の業務に精一杯でそこまで回らない。

■医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

- ・考え方のズレなどがあるので、そこをどうすり合わせするか、認識や捉え方の違いをなくすためにどう説明すれば正確に伝わるかを考えながら仕事をしている。